

青森のおへそから

平内町×青森大学×青い森鉄道
ニューズレター

晚餐会に町内外の90人

銘酒やスイーツ楽しみ交流

平内町と青森大学、青い森鉄道による若者ネットワークづくり事業の第一弾となる交流イベント「ひらない魅力発掘晚餐会」が2015年1月23日、町勤労青少年ホームで開かれました。

当初、想定した定員50人を大幅に上回る約90人が、町内外から駆けつけ、この日のために作られたケーキとコーヒー「ひらないブレンド」、選ばれた銘酒の数々、ホタテ焼きなどに舌鼓を打ちながら、町の魅力について語り合いました。

イベントには町内の辻村酒店とお菓子工房プティ・ポヌール、レストラン喫茶ボンネット、企画会社ルミナーージュ（東京都）、青い森鉄道（青森市）、平内町・未来創造ひらない塾、そして青森大学の7団体がブースを出展し、選りすぐりの味の振る舞いとPRを行って、参加者からは「平内が好きになりました」「また、このようなイベントを」といった声が上がりました。



写真上は開会セレモニーで氣勢を上げる辻村大・大会委員長(右端)ら。写真下は会場を埋めた参加者



ビデオメッセージ
故郷への思い熱く

下山天さん

飯田美花さん



ビデオでメッセージを寄せた平内町出身の映画監督・下山天さんは「いつかは故郷で大ロケーションを行いたい」と語り、同じく女子プロレスラーの飯田美花さんは「平内の若者が誇りを持つ仕事を見つけれれば」と熱くエールを送りました。



Facebookページ「青森のおへそから～私の平内、あなたの平内」はこちら！
(どなたでも、オリジナルのカラー版をネットでご覧いただけます)



若者ネットワークづくり 着実に第一歩

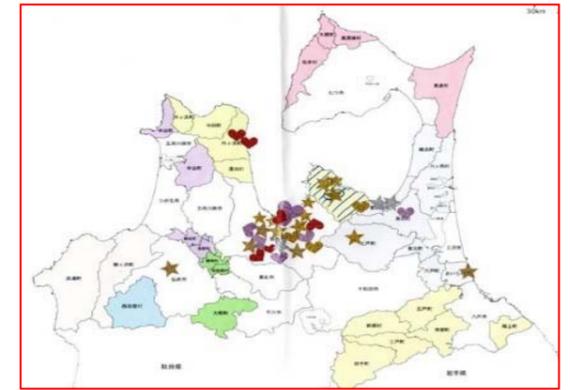
ひとりひとりが考えて輪を広げよう 辻村大・大会委員長

先日はひらない魅力発掘晚餐会にご参加頂き誠にありがとうございました。開催にあたりご協力いただいた皆様に今一度、厚く御礼を申し上げます。おかげ様で大変多くのお喜びの声をいただく事が出来ました。しかしながらこの会は序章に過ぎません。「町おこし」「地域活性化」には正解はありません。ということは反面、何をやってみても良いという事になります。まずはひとりひとりが考え、その輪を大きくしていくことが必要です。

そしてもう一つ大事なことは「もつけ」になる事(笑)。難しく考えずにまずは自分がやりたい事、楽しい事をみんなで語り合しましょう！

来て楽しい、見て楽しい、食べて楽しい、参加して楽しい、様々な楽しいがある町「ひらない」をみんなで一緒に考えて行きましょうよ！

参加者はこんなところから



来場者に、地図にシールを貼っていただきました。星が男性、ハートが女性です！

◇チケットの半券による来場者分析

- ・平内町 39名
- ・青森市 25名
- ・野辺地町 3名
- ・外ヶ浜町 2名
- ・弘前市 1名
- ・黒石市 1名
- ・東北町 1名
- ・おいらせ町 1名
- ・神奈川県横浜市 1名
- ・住所記入なし 11名
- ★男性42名
- ♥女性43名



来場者の声 (掲示板の付せん紙から)

このイベントに参加していろいろ勉強になりました。平内に住んでいることの幸せを感じる。

今日が新しい平内のスタートです。

山越えて たどりついたよ ホタテ汁

保育料が安くなったらありがたい。

もっと若者が集まるこんなイベントがあればうれしい。

- 編集・発行
青森大学地域貢献センター
- 連絡先
青森市幸畑2丁目3の1
- 電話
017(738)2001

あひらの平内 私の平内



青い森鉄道ブースの前で「モーリー君」と記念撮影するコスプレプレイヤーたち

初めて尽くしの挑戦で成長

レストラン喫茶ボンネット 木戸大樹さん

このイベントに参加できて感じたのは、とてもおもしろくて、刺激を受けられて、そして成長のきっかけをもらったということです。

当店はイベント出店は初めて。また同業種のカフェ・テ・シターヌさんとの「ひらなブレンド」の商品開発も初。そしてコーヒーの抽出方法ではハンドドリップも初の試み。と、新しい挑戦ができて、とても刺激を受けました。新しい挑戦をしてみ、ボンネットが今までやり続けて来たこと、自分の足元、立ち位置をしっかりと確認できました。

また、ルミナーージュさんの取り組みを見て、外から見た平内町の魅力、地域活性的な方法は、自分には考えつかなかったことと、興味深く、なんだかワクワクしました。

新しい挑戦のキッカケと人とつながれるチャンスを与えてもらえて、とても感謝しています。自分の成長が平内町の成長の一部になるのなら最高だ！と思えるイベントでした。

ありがとうございます。参加してよかったです！



来場者をもてなす 辻村大会委員長



青森放送の取材に応じる 船橋茂久町長

「とりあえず動く」が大切 畑井忠澄・大会副委員長

皆様、イベントを楽しんでいただけたでしょうか？ イベントを通して忘れてほしくないことがあります。何かを始めようという気持ちを行動に起こしてほしいです。考えるだけ、口にするだけではなく「とりあえず動いてみる」というのが大切だと思います。

失敗するかもしれない、無駄かもしれない、人間だれしもそういうマイナスなことは避けて生きていきたいと思いますが、その一つ一つが巡り巡って成功へとつながっていくと私は考えています。

そして肝心なのは、1人では何もできないということです。人間の1人の力には限界があります。「誰かと一緒に行動していくこと」、これが成功への近道だと思います。1人1人足りない部分を補い合い、2人で足りないなら3人、4人。どんどん大きな円を作り出していくこと、このイベントがその足掛かりになればと思います。

語り合う 味わう 平内に集う喜び

魅力と可能性を実感

お菓子工房プティ ボヌール 渡辺悟さん

平内町にはまだまだ沢山の魅力があり、可能性がある町だと実感しました。どんどん人が集まって意見を交換して町を活性化していける、このような事業が今後も続いて欲しいと思います。今回の事業に参加できて本当に良かったです。ありがとうございました。



ビデオメッセージに感銘

青森大学社会学部3年 田村康希さん

今回の平内プロジェクトにはニュースレターから関わることになり、最終的にはイベントにも参加させてもらいました。最初は慣れないことも多く、苦労することも多かったですが、その中で多くの経験や出会いがあり、たくさんのことを学ぶ機会になりました。

一番印象に残っているのは、平内町出身で女子プロレスラーの飯田美花さんが、ビデオメッセージの中でおっしゃっていた「どんな仕事でも誰のためにもならない仕事はないと思う。今やっている仕事に意味と責任を見つけれれば良い」という言葉でした。これからの私達にとって、教訓となりうる心強い言葉だと思ったからです。

この活動を通して、「見せ方」「伝え方」の大切さを知りました。特にイベントの中で感じたのが、「どのような要素が必要とされるのか」、「どうしたら自分達のブースを見てもらえるのか」を考える重要性です。会場では、予測しないことが多く、思うようにいかず、不慣れなところが目立ってしまったことは、これからのために反省・改善すべき点かなと思います。

私自身、このような楽しくやりがいのある活動に関われたことは、すごく運が良かったと感じています。活動の中で気付いた反省点も含め、この貴重な経験をこれからの生かしていけるように頑張ります。

「平内ホタテ」提案いただく

平内町役場 佐々木聡さん

1月23日のイベントでは名前のお通り、これまで埋もれていた平内町の魅力を、町内外のお客さんだけでなく町の観光・商工に携わっている方々にもPRすることができたと思います。

ポストイットや書き込みは個人的には少なかつたなと残念ですが、イベント中に会場にいる人に声をかけると、多くの方から意見を聞くことができました。

例としては「陸奥湾産ホタテ」という名前は県内外でもあまり周知されているが平内ホタテというのはあまり聞かない。調べてみると陸奥湾産のホタテの大半は平内町産であり、味もダントツなのだから、平内ホタテでブランド化したほうがまちのPRにつながるのではないか」との意見を、平内町のブースを見てホタテを食べたお客様から頂きました。

今回のイベントはあくまでキックオフであり、町の活性化につながるのはまだまだ先の話だと思いますが、およそ90人の方が町のグルメを味わいながら歓談する姿を見たら、何か希望のようなものを感じました。

個人的な意見ですが、次回のイベントはターゲットをあまり広げずにワークショップや講演の時間と「魅力発掘！新作試食会」的な物をしっかり区切って開催し、意見をたくさん頂けるようなものにできたらと思いました。



青森大学×平内町連携プロジェクト実行委員会から

委員長 柏谷至 (青森大学地域貢献センター)

「ひらな魅力発掘晩餐会～銘酒とスイーツのタベ～」にご来場くださった皆さま、また開催に向けさまざまな形でご協力をいただいた皆さま、ありがとうございました。

平内町と青森大学との連携協定締結を機に、大学と町民グループ、青い森鉄道の協力で実現した本イベントは、盛況のうちに無事終了することができました。会場からは、「町の良いところを再認識できた」「また企画してほしい」「自分たちも何かやってみたい」などの声が寄せられ、「町内外の若者の交流とネットワークづくり」、「町の魅力発信」という当初の目的を果たすことができたのではないかと思います。

私たちは、このイベントの成功を出発点として、平内町の持つ自然・文化・人の魅力を新しい視点で見直し、若者ネットワークの充実や町の魅力発信に取り組んでいきたいと考えています。町民の皆さまにもいっそうのご理解・ご協力をいただけますよう、あらためてお願い申し上げます。



開場で振る舞われた オリジナルケーキ